

2013 11/26

No.1959

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
— 神奈川政経懇話会 —



横浜・みなとみらい21(MM21)地区の横浜ランドマークタワーにある国重要文化財「ドックヤードガーデン」で7月から行われている「プロジェクト・オン・マッピング」。その第2弾としてクリスマスに向け、ディズニー映画「リトル・マーメイド」を基にしたオリジナル映像が7日から上映。12月25日まで。



政経かながわ

contents

2013 11/26 No.1959

視点・点描	3
「神奈川アマ野球」の底力	
講演録	4
「人と人を結ぶまごころ宅急便 ～クロネコヤマトの満足創造経営」 ヤマトホールディングス株式会社代表取締役社長 木川 眞	
政治	8
危険だらけ秘密保護法案 運用の透明性を高めよ	
国際	10
タイ投資、堅調に推移 産業高度化へ奨励制度見直し	
国際	12
先進国でレジ袋削減の動き 規制強化の中、後戻りも	
くらし2013	14
睡眠と生活習慣に関連性	
広告珍談	16
～うまい物がたり⑳ むらさきとは？	
NNAアジア経済レポート	17
神奈川景気データファイル	18

事務局だより

◇横浜定例講演会

2013年12月11日（水）

13時30分～15時

崎陽軒本店 5階「マンダリン」

講師は神奈川新聞社論説主幹の中嶋 弘孝氏、共同通信社政治部長の鈴木 博之氏、同社経済部長の谷口 誠氏、同社外信部長の藤井 靖氏
演題は「2014年の動向を読む」

◇横浜定例講演会

2014年1月29日（水）

14時～15時30分

横浜情報文化センター 6階「情文ホール」

講師は全日本男子柔道監督、東海大学講師の井上 康生氏
演題は「夢への挑戦～私の柔道人生」

視点 点描



「神奈川アマ野球」の底力

この秋、神奈川アマチュア野球界で二つの快挙が達成された。大学野球の桐蔭横浜大が横浜市長杯関東地区選手権大会で、高校軟式野球の慶応高が秋季関東大会で、ともに初優勝を飾った。

そもそも同選手権は、横浜スタジアムを舞台に、関東5リーグによる明治神宮大会予選として2005年に創設された。だが当初は地元の神奈川リーグは苦戦続き。第6回でようやく神奈川大が神宮切符をつかみ、それから毎年代表を送るが、いずれも2位だった。ご記憶の方も多いだろうが、桐蔭大は昨秋、神宮大会で初優勝を飾っている。全国が先になったが、

その桐蔭大も秋季リーグでは苦しんだ。活躍に刺激を受けたライバルと切磋琢磨した成果を神宮大会連覇で示したいところだ。一方の慶応高だが、関東大会決勝は同じ神奈川の横浜創学館高と延長十三回の熱戦を演じて1-0でサヨナラ勝ちした。神奈川の高校軟式野球は現在、全国トップの実力を誇ると言っても過言ではない。

昨年秋の関東大会で横浜隼人が優勝して以来、今年の春の関東は武相、夏の南関東と全国は横浜悠館がそれぞれ頂点に立ち、県外の大大会で神奈川は無敵だ。そして注目されたこの秋はなんと、神奈川同士の決勝になった。そして驚くのは、この秋を含めて優勝校がすべて異なることだ。

全国選手権初出場で優勝した悠館の丸山王明監督(46)は「全国で対戦した相手をすべて神奈川のチームにたとえることができ」と話していた。多彩なチームカラーの加盟24校が、まさにしおぎを削っているからこそこれだけの強さが発揮できる。

注目はプロや高校の硬式に集まるが、両校の関東制覇が神奈川球界の底力を示している。

(神奈川新聞社運動部長

岡部 伸康)

むらさきとは？

おおものは野菜、おすもじは寿司、おでんは田楽、おひやは水のこと。室町時代、朝廷に仕える女官たちがつかった、女房ことばである。醤油は、むらさきと呼んだ。なんと優雅ではないか。うま味と香りまで感じさせる。

ツンベルグはしょうゆをソースに交ぜるといふ。生醤油を掛けるのではないらしい。

獅子文六は「アメリカにいた私の友人は、雇い入れた女中が醤油の盗み飲みをして困ると語った。それも、生のままの醤油を盗み飲みするというのだからよほどの味が、アメリカ人の舌に合うのだろう。でも、フランス人だって、ずいぶん醤油の味を解した。パリのマドレーヌ寺院の近くに、世界

の珍味屋のような店があり、そこで二合ビン入りの醤油を売っていた。値段は高かったが、小豆島製の醤油で、味はなかなかよかつた」と『食味歳時記』に書く。

ツンベルグと獅子文六の時間差は1世紀ほど、その間に何かがあったらしい。

1875（明治8）年8月の東京新聞によると、ヨーロッパでは日本のしょうゆを、腐ったモノと使わなかった。ところがある西

価された。ちかごろはヨーロッパ各国で重宝され、とうとうニセモノまで現れたと報じた。

ルイ14世がお好みのJAP S OYAはともかく、現代になって科学的な検査が行われて合格。需要が増えたらしい。

告 知

印 醬 油

右龜甲萬印之儀年來諸君之御愛顧を蒙り歳増手廣く相弘り候處不長之徒有之偽作之品製出致し中味不正之品を以印焼判等迄其製向様摸造致し紛敷類都鄙に夥敷相見候に付今般更信偽判然致候様佛蘭西製金緒之張紙を貼用致候間自今目御検査之不相換御愛顧御購求之程偏み希而已

千葉縣第十二大區十一小區下總感
葛飾郡野田町 茂木佐平治

87（明治20）年4月の高知日報は、ますます愛用者が増え、日常の必需品になった。しかし日本の生産量は追いつかない。オランダの市場を調べると、日本の税関を通過した製品ではなく、ジャワ島

でつくられたニセモノで、こん包も日本製とそっくりであると。

78（明治11）年2月、キッコーマンは最初の広告を掲出した。

亀甲萬印醤油はみなさまにご愛顧をいただいておりますが、近頃、偽物が出まわりました。もちろん中身は不良品ですが、焼き印などそっくりに模造され、まことにまぎらわしく、おびただしい量が各地で見られます。そのためフランス製の金箔のレットルを添付しますから、それを目印にお買い求めください。

右端に「告知」とある。「広告」という用語が用いられたのは1872（明治5）年4月14日の横浜毎日新聞。それ以前は、告知・報告・告白・告条・布告などといった。

（美術エッセイスト、茅ヶ崎市在住）
（図）キッコーマン最初の広告・1878（明治11）年2月掲載